

日本史B

I 次の問1から問4に答えなさい。

問1 以下の文中の空欄 1・2 に入るものも適切な語句を、下記の選択肢から選び、解答用紙の解答記入欄に記号で答えなさい。

朝鮮半島では、唐と新羅が結んで、660（斉明天皇6）年に百済を、668（天智天皇7）年には高句麗を滅ぼした。斉明天皇と中大兄皇子は、百済を復興して朝鮮半島における倭国の優位性を復活させようと考え、百済救援の大軍を派遣することを決したが、663（天智天皇2）年、白村江の戦いにおいて、唐・新羅の連合軍に大敗した。敗戦後、唐・新羅の侵攻に備え、翌664（天智天皇3）年、大宰府の北に 1 を設けた。

中大兄皇子は、667（天智天皇6）年に都を近江大津宮に移し、翌年に即位して天智天皇となり、670（天智天皇9）年には最初の戸籍である 2 年籍を作成した。これは、豪族から公民・部曲・奴婢までの全階層にわたる全国的な戸籍である。

(選択肢)

- a 甲子
- b 乙巳
- c 庚午
- d 饗舟耨
- e 水城
- f 重祚

問2 以下の文中の空欄 3・4 に入るものも適切な語句を、下記の選択肢から選び、解答用紙の解答記入欄に記号で答えなさい。

源頼朝は、1180（治承4）年の富士川の戦いのあと、 3 を設け、長官である別当には三浦一族の和田義盛を任じ、頼朝と主従の関係を結んだ武士である御家人を統制させた。また、1184（元暦元）年には、 4 を開いた。その長官である別当には、朝廷の練達な下級官吏である大江広元を任じ、一般の政務や財政事務を管掌させた。

(選択肢)

- a 問注所
- b 公文所
- c 侍所
- d 守護
- e 鎮西奉行
- f 鎌倉番役

問3 以下の文中の空欄 5・6 に入るものも適切な語句を、下記の選択肢から選び、解答用紙の解答記入欄に記号で答えなさい。

1651（慶安4）年に、徳川家綱が11歳で4代将軍になった。すでに幕府機構は整備され、平和が続く中、多数の年人の問題が社会不安を招くようになった。同年7月に兵学者由井正雪の乱がおこると、年人の発生を防ぐため、幕府は 5 の禁止を緩和した。これは御家断絶の原因になっていたものであった。

また、藩政の安定と領内経済の安定がはかられるようになり、いくつかの藩では、藩主が儒学者を顧問にして藩政の刷新をはかった。例えば、加賀藩の 6 は、朱子学者木下順庵らの意見を入れて、藩政に取り組んだ。

(選択肢)

- a 保科正之
- b 池田光政
- c 前田綱紀
- d 末期養子
- e 殉死
- f キリスト教

問4 以下の文中の空欄 7・8 に入るものも適切な語句を、下記の選択肢から選び、解答用紙の解答記入欄に記号で答えなさい。

1912（大正元）年、西園寺内閣は財政難を理由に2個師団増設を受け入れなかったが、これに抗議した陸軍大臣上原勇作は、単独で天皇に辞表を提出し、西園寺内閣は総辞職に追い込まれた。かわって、それまで内大臣だった桂太郎が陸軍や藩閥・官僚勢力を後ろ盾に三たび内閣を組織した。しかし、この組閣に対して、立憲政友会の 7 や立憲国民党の大養毅らは憲政擁護会をつくり、「閥族打破・憲政擁護」のスローガンをかけ、桂内閣打倒をめざすという、いわゆる 8 運動が展開された。桂は新政党をみずから組織してこれに対抗しようとしたが、1913（大正2）年、民衆が議会を包囲するなか、在職わずか50日余りで退陣した。

(選択肢)

- a 尾崎行雄
- b 美濃部達吉
- c 山本権兵衛
- d 五・四
- e 第一次護憲
- f 第二次護憲

II 次の文中の空欄に、もっとも適する語句を解答用紙の解答記入欄に記入しなさい。

(1) 10～11世紀の文化は、国風化という点に特色があるので、国風文化と呼ばれる。かな文字の発達で国文学がおおおいに発達したが、和歌では、紀貫之らによって、最初の勅撰和歌集である「」が編集された。その繊細で技巧的な歌風は、長く和歌の模範とされた。

また、すぐれたかな文学の作品もつぎつぎに著されるようになった。かな物語では、中宮彰子に仕えた紫式部の「」が生まれた。これは、宮廷貴族の生活を題材にした大作である。

(2) 沖繩では、北山・中山・南山の3地方勢力(三山)が成立して争っていたが、1429(永享元)年、中山王のが三山を統一し、琉球王国をつくりあげた。琉球は、明や日本などと国交を結ぶとともに、海外貿易をさかんにおこなった。

一方、古くから北海道に住み、漁労・狩猟や交易を産業としていたアイヌは、和人と交易をおこなった。和人の進出はしだいにアイヌを圧迫し、たえかねたアイヌは、1457(長祿元)年、大酋長を中心に蜂起し、一時は和人居住地のほとんどを攻め落としたが、まもなく上之国の領主蠣崎氏によってしずめられた。

(3) 江戸時代後期の文学は、身近な政治や社会のできごとが題材とされ、さらに出版物や貸本屋の普及もあって、広く民衆のものとなった。小説では、洒落本や黄表紙が流行した。しかし、「仕懸文庫」『江戸生艶気譚』を書いた代表的作家であるが、寛政の改革で手鎖50日の処罰を受けると衰えた。

また、文化期には滑稽さや笑いをもとに、庶民の生活を軽妙な会話中心に生き生きと描いた滑稽本が盛んとなった。滑稽本の作者であるが書いた『東海道中膝栗毛』は好評で、「金毘羅参詣」や「官島参詣」などの続編を生んだ。

(4) 江戸幕府は、外国船員と住民との衝突などを避けるため、1825(文政8)年、異国船打払令を出し、外国船を撃退するよう命じた。このため、1837(天保8)年に、アメリカの商船モリソン号が来航した際、これを撃退させる事件がおこった。この事件について、翌1838(天保9)年、は『憤襟論』を、は『戌戌夢物語』を書いて、幕府の対外政策を批判した。しかし、翌年、幕府はこれらに対して、きびしく処罰した。

III 以下の問について、各問の指示に従って解答用紙の解答記入欄に記述しなさい。

問1 明治政府の近代化政策におけるもっとも重要な課題は、経済面においては、欧米諸国の経済制度・技術・設備・機械などの導入による政府の近代産業の育成であった。日本の明治時代における殖産興業について、120字程度で説明しなさい。

問2 明治政府は、西南戦争の戦費の必要から、不換紙幣を増発した。また、民間の国立銀行も盛んに不換銀行券を発行したので、激しいインフレーションがおこり、物価が騰貴した。その結果、政府の歳入は実質的に低減し、財政は困難になった。こうした中、1881(明治14)年、松方正義が参議兼大藏卿(のち大藏大臣)となったが、1880年代前半に実施された松方財政について、120字程度で説明しなさい。